

**百済河成** 画家。単なる工人としてではなく、卓越した絵画技術によって、日本で初めて正史に特筆された。

くだらのかわなり

万葉集完成・782 = 生。氏名は初め余。百済からの渡来人の子孫。

・・・・・・ 791 = 9歳 :

平安京遷都・794 = 12歳 :

・・・・・・ 800 = 18歳 :

弓をよくし、武勇に長じていたという。

桓武天皇没・806 = 24歳 :

・・・・・・ 808 = 26歳 : \*左近衛府の舎人となり、

嵯峨天皇即位 809 = 27歳 :

薬子の変・810 = 28歳 :

絵画も得意であったことから、しばしば召し出され、河成の描く古人の姿絵や山水草木はまるで命あるものようであったと称えられた。

また、ある人が従者を召喚させた時、その者の顔を知らなかったが、河成が描いた姿絵によって誰であるかがわかったという。飛騨の匠と技術競べをした際、腐臭の漂うほど真に迫った死体を描いて怖れさせたという逸話なども伝わる。いずれも、河成の描く絵は本物のようだという驚きと称賛を含む内容である。

文華秀麗集・818 = 36歳 :

嵯峨上皇・823 = 41歳 : 美作権少目に任命され、

経国集・827 = 45歳 :

・・・・・・ 833 = 51歳 : 外従五位下を授けられる。

空海没・835 = 53歳 : \*作庭も行なったらしく、この頃完成した嵯峨院の滝殿の石を立てたと伝えられる。

17遣唐使遭難 836 = 54歳 :

以後、累進して備中介・播磨介などを歴任し、

承和の変・842 = 60歳 :

・・・・・・ 845 = 63歳 :

円珍入唐・853 = 71歳 : 没した。